

全国学力学習状況調査分析

実施日：令和3年5月27日（木）

対 象：第3学年（梅組生徒23名／欠席者2名のため21名が解答）

調査問題：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1347088.htm

【国語】

1 概況

	平均正答数	平均正答率（％）	標準偏差
大賀郷中学校	10.3/14	73	2.5
東京都（公立）	9.4/14	67	2.8
全 国（公立）	9.0/14	64.6	2.8

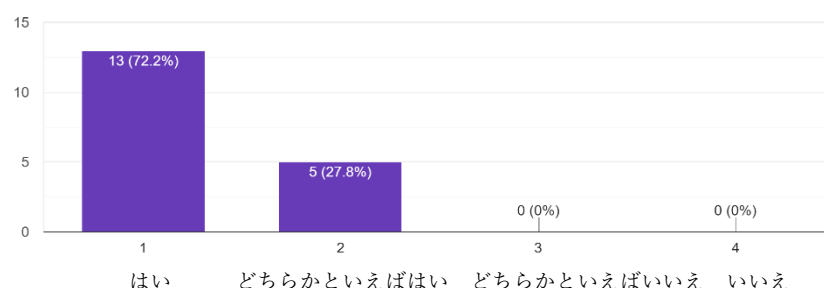
全14問中、12問正答した生徒が33.3%と最も多く、そのほかの生徒は14問から5問にほぼ均等に分布している。

2 指導要領の領域等から見た特徴

観 点	対象問題数	大賀郷中学校	東京都	差
話すこと・聞くこと	3	87.3	81.9	5.4
書くこと	3	71.4	59.7	11.7
読むこと	4	60.7	52.5	8.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	77.4	76.1	1.3

いずれの領域等においても東京都の平均を超えた。特に「書くこと」については11.7ポイント上回っており、よく解答できている。設問は「意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する」「意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く」「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」といった、「書くこと」に係る知識・技能を問うものであり、国語をはじめとした全教科で言語活動を行っている成果だと考えられる。また、1学期末に実施した生徒対象の授業アンケートにおいても、右のグラフで示したとおり、日常的に「書くこと」に対して取り組んでいることがわかる。

補足のメモや、自分なりのまとめなど、ノートを工夫してとった。
18件の回答



一方で、最も東京都との差が少なかった「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について設問を見ると、漢字の読みや語句の意味を問うものは正答率が81～100%と高かったのに比べ、「『行く』を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する」問いで、「伺う」「参る」と答え、謙譲語を選ぶことのできた生徒は28.6%（東京都は32.9%）にとどまった。また、「ご訪問する」「お訪ねする」といった適切な表現ができなかった生徒は9.5%（東京都は6.2%）となり、敬語の知識の定着に課題があった。3年生は昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で職場体験が実施できず、敬語の学習を日常で実践する機会を設定できなかったことが関係しているものと推測される。

3 問題形式から見た特徴

観 点	対象問題数	大賀郷中学校	東京都	差
選択式	6	73.0	67.0	6
短答式	4	79.8	75.1	4.7
記述式	4	67.9	59.2	8.7

解答の仕方には選択肢の記号を選ぶ「選択式」、漢字の読みや問題文中から書き抜いたり、敬語に書き換えたりする「短答式」、まとまった文章で解答する「記述式」の3種類がある。これらのうち、「記述式」では東京都から8.7ポイント上回る平均値となった。質問紙調査の(51)「*今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。*」の設問では全ての生徒が肯定的評価(東京都96.8%)をしており、「書く」意欲の高さによるものと認められる。しかし、このような問題では正答の条件が設けられており、条件をすべて満たしていなくても正解とされる。各問題での解答状況を見ると、5~10%の回答で条件のうちいずれかが欠けていた。さらなる向上が期待できる。また、3「吾輩は猫である」を読んで答える問題において、四「『吾輩』が『黒』をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く」設問で、「本文中から引用する」という条件が満たされていない回答が42.9%もあったことや他の記述式問題に比べて無答率が23.8%に上ったことから、文学的文章においては解答を記述する以前に十分に読み取る力となることが分かった。

短答式の設問は東京都の平均値との差が少ないが、これは「2 指導要領の領域等から見た特徴」で示した敬語を問う問題で正答率が低かったことと、他の問題では81~100%の高い正答率で差が出にくかったためである。

【数学】

1 概況

	平均正答数	平均正答率(%)	標準偏差
大賀郷中学校	10.9/16	68	3.5
東京都(公立)	9.6/16	60	3.7
全 国(公立)	9.1/16	57.2	3.7

全16問中、14問正答した生徒が23.8%と最も多く、次いで12問正答した生徒が19.0%いた。そのほかの生徒でおおよそ正規分布しており、国や東京都の標準偏差よりも小さい値となった。

2 指導要領の領域等から見た特徴

観 点	対象問題数	大賀郷中学校	東京都	差
数と式	5	77.1	68.5	8.6
図形	4	65.5	56.0	9.5
関数	3	69.8	58.1	11.7
資料の活用	4	58.3	54.7	3.6

いずれの領域等においても東京都の平均を超えた。特に「関数」については11.7ポイント上回っており、よく解答できている。設問4は「*経過した時間と影の長さの関係を、『…は…の関数である』という形で表現する*」問いで、「影の長さ」「経過した時間」が正答である。33.3%の誤答があったが、順を逆にしたものであり、前述した語句以外の解答をした生徒はいなかった。関数の考え方には概ね理解を示しており、発展的な問題である7(2)「*与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する*」問いでは、東京都の正答率が30.3%であ

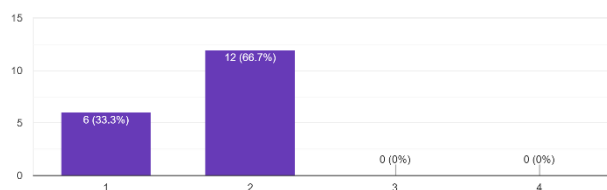
ったのに対して 47.6%の正答率となった。差の小さかった「資料の活用」は、8（2）「*2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ*」問いでは相対度数の必要性と意味の理解をみているが、正解は 47.6%（東京都は 38.5%）であり、グラフや表の性質や役割についての理解が十分ではないことがわかる。8（3）「*『日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある』と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する*」問いで無答率が 19%（東京都は 31.9%）であったものの、正答率も 19%（東京都は 11.2%）と低い値であったのは、理解が十分でないためにグラフや表の活用ができなかったからである。「関数」の 7（2）で表やグラフを用いた解答が少なかったことにもその傾向が見られる。資料活用能力はさまざまな学習活動で求められる力である。今後の授業改善が必要である。

3 評価の観点から見た特徴

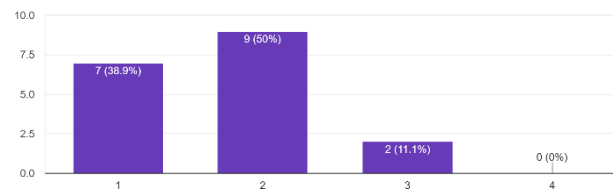
観 点	対象問題数	大賀郷中学校	東京都	差
数学的な見方や考え方	7	55.1	44.6	10.5
数学的な技能	3	82.5	79.6	2.9
数量や図形などについての知識・理解	6	76.2	68.1	8.1

数学の評価においては一般的に「数学的な見方や考え方」＜「数学的な技能」となる傾向がある。計算や公式などの知識を前提として思考するものと考えられているからである。しかし、今回の調査で東京都との比較においては「技能」の差よりも「見方・考え方」に大きな差を得た。これは前述したとおり「技能」「知識・理解」でのアドバンテージが結果として「見方・考え方」に大きく影響したものと理解できるが、日常的な授業改善によるものも大きく関係していると思われる。本校では数学の授業において“生徒のペースで”“たっぷりと”考える時間を確保している。1学期の授業アンケートによると生徒が「授業のねらいを理解し、意欲的に学習することができた」「私語や授業と関係ない作業をせずに、集中して授業に取り組んだ。」で、それぞれほぼ全ての生徒が肯定的な回答をしている。

授業のねらいを理解し、意欲的に学習することができた。
18件の回答



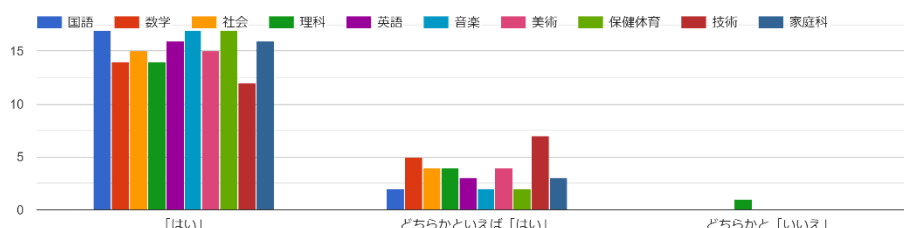
私語や授業と関係ない作業をせずに、集中して授業に取り組んだ。
18件の回答



また、「授業を進めるスピードはちょうどよいですか。」についてからは、十分に生徒が考える時間を確保していることがわかる。

このような授業実践が生徒の「見方・考え方」の育成に成果を上げたものと推測される。

授業を進めるスピードはちょうどよいですか。



質問紙調査（５７）（６０）でもそれぞれ数学の学びに向かう姿勢が表れている。

		当てはまる		当てはまらない	
(５７)	人数	12	5	2	2
	大賀郷中	57.1	23.8	9.5	9.5
	東京都	37.3	38.1	18.2	6.2
	全国	38.3	37.5	18.1	6.0
(６０)	人数	11	10	0	
	大賀郷中	52.4	47.6	0.0	
	東京都	59.5	35.1	5.0	
	全国	57.8	36.6	5.2	

【質問紙調査】

1 生活

		当てはまる		当てはまらない	
(１)	人数	14	6	1	0
	大賀郷中	66.7	28.6	4.8	0.0
	東京都	81.5	10.7	5.2	2.5
	全国	81.8	11.0	4.9	2.2
(２)	人数	11	10	0	0
	大賀郷中	52.4	47.6	0.0	0.0
	東京都	36.0	42.6	16.9	4.4
	全国	36.3	43.5	16.5	3.7

(１)「朝食を毎日食べていますか」については概ね良好と見られるが、「当てはまる」の割合がやや低い結果となった。(２)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については、全ての生徒が肯定的評価に回答したが、就寝時間が何時であるかは別の調査が必要である。

2 自己理解

		当てはまる		当てはまらない	
(６)	人数	6	6	6	3
	大賀郷中	28.6	28.6	28.6	14.3
	東京都	36.4	39.9	16.1	7.5
	全国	34.5	41.7	16.6	7.1
(７)	人数	10	8	1	2
	大賀郷中	47.6	38.1	4.8	9.5
	東京都	38.5	28.0	20.3	13.1
	全国	40.5	28.1	19.5	11.8
(１２)	人数	21	0	0	0
	大賀郷中	100.0	0.0	0.0	0.0
	東京都	69.3	24.1	4.4	2.1
	全国	74.3	20.7	3.5	1.5

自己肯定感を問う設問（６）「*自分には、よいところがあると思いますか*」では、依然として肯定的な評価が少ない結果となった。一方で（７）「*将来の夢や目標を持っていますか*」では大多数の生徒が肯定的評価を回答し、（１２）「*人の役に立つ人間になりたいと思いますか*」では全生徒が「当てはまる」を回答した。設問の表現で「当てはまる」を回答することを忌避した生徒も自己有用感は育成できているという点が学校としての成果と言える。

3 地域

		当てはまる		当てはまらない		
(2 4)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	人数	12	6	3	0
		大賀郷中	57.1	28.6	14.3	0.0
		東京都	9.9	22.4	29.5	38.0
		全国	16.3	27.4	27.0	29.1
(2 5)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	人数	6	11	3	1
		大賀郷中	28.6	52.4	14.3	4.8
		東京都	11.8	29.6	35.6	22.8
		全国	12.6	31.2	6.2	19.8

（２４）「*今住んでいる地域の行事に参加していますか*」では肯定的な評価が85.7%（東京都は32.3%）、（２５）「*地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか*」では肯定的な評価が81.0%（東京都は41.4%）と大きな差が見られた。地域の方々に育まれ、キャリア形成に大きく影響があることがわかる。学習する動機に結び付け、進路指導を進めていく。

4 ICT

		当てはまる				当てはまらない			
(26)	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	人数	11	4	5	1			
		大賀郷中	52.4	19.0	23.8	4.8			
		東京都	9.9	27.3	35.3	27.3			
		全国	7.4	26.0	35.5	30.7			
(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	人数	13	6	2	0			
		大賀郷中	61.9	28.6	9.5	0.0			
		東京都	10.0	27.2	28.9	33.7			
		全国	9.7	25.1	28.2	36.8			
(28)	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	人数	17	4	0	0			
		大賀郷中	81.0	19.0	0.0	0.0			
		東京都	56.0	35.8	5.2	2.8			
		全国	60.4	32.8	4.5	2.2			
		3h～	2～3h	1～2h	30m～1h	～30m	不使用	未所持	
(29)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか	人数	1	0	9	6	5	0	0
		大賀郷中	4.8	0.0	42.9	28.6	23.8	0.0	0.0
		東京都	3.3	5.1	14.7	25.5	33.7	15.5	1.8
		全国	2.7	4.3	12.5	22.7	34.5	19.3	3.6

(26)「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」、(27)「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」では、「当てはまる」で大きく東京都の平均値を越えた。また、(28)「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、すべての生徒が肯定的評価となった。

(29)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」では、すべての生徒が勉強のためにICT機器を使用している実態が分かった。

八丈町からはタブレットPCを生徒一人一人に配布していただき、十分に活用している。教職員も有効に学校の教育活動へ導入するために日々研鑽を積んでいる成果だと思われる。

5 新型コロナウイルスの感染拡大

			当てはまる		当てはまらない		その他
(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	人数	9	5	1	5	1
		大賀郷中	42.9	23.8	4.8	23.8	4.8
		東京都	35.5	27.5	15.7	15.5	5.6
		全国	34.6	28.2	16.2	15.5	5.3
(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	人数	1	4	11	3	2
		大賀郷中	4.8	19.0	52.4	14.3	9.5
		東京都	11.5	25.0	32.8	23.9	6.5
		全国	11.3	26.3	33.5	22.4	6.3
(66)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	人数	3	6	5	6	1
		大賀郷中	14.3	28.6	23.8	28.6	4.8
		東京都	21.3	25.4	24.5	22.6	6.0
		全国	21.9	26.5	24.7	21.0	5.7

			先生	友達	家族	←以外	自分で	そのまま	なかった	思い出せない
(67)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか(複数選択)	人数	4	9	8	1	16	1	0	1
		大賀郷中	19.0	42.9	38.1	4.8	76.2	4.8	0.0	4.8
		東京都	8.1	49.0	43.9	12.4	61.2	12.3	7.3	7.0
		全国	7.2	43.9	44.3	12.3	61.6	14.3	6.3	6.9

(64)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」では不安を感じず自主的に学習を進めていた生徒も一定数いたが、不安を感じていた生徒は東京都平均より多かった。(65)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」では計画的な学習が困難だったと感じた生徒が東京都平均に対して多く、リモート学習などを実施することになったときの支援体制の構築が必要である。(66)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」では、「当てはまる」が東京都平均より7ポイント低かった。(67)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校

からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか」では、76.2%の生徒が「自分で調べた」と回答し、自主的に学ぶ力は身に付いていることがわかる。

学校のない生活でも、ICT 等を活用して自主的に学ぶ力は育成できているが、心身の健康を保つうえで生徒にとって学校は大きな意味をもっていることがわかる。